

3. 大分県のがんの死亡の概要

1) 全体の概要

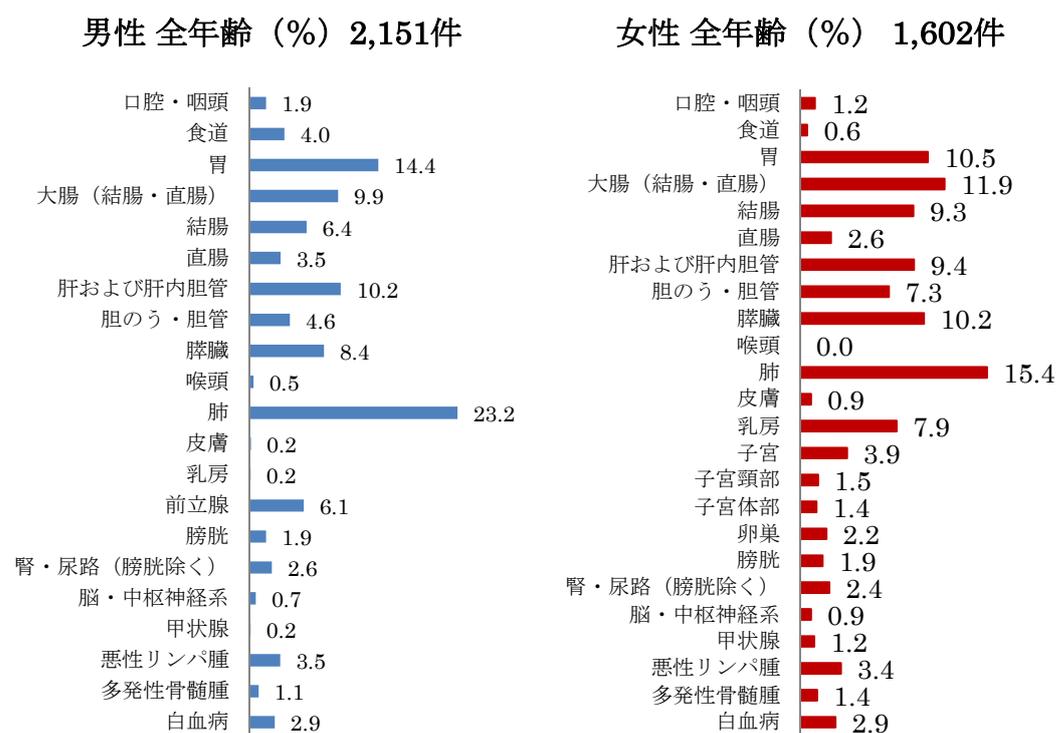
2012年に大分県において、男性2,151人、女性1,602人、合計3,753人が、がんによる死亡であった。

男性の部位別に見ると、死亡割合が高い順に肺がん、胃がん、肝および肝内胆管がんで、それぞれ23.2%、14.4%、10.2%であった。

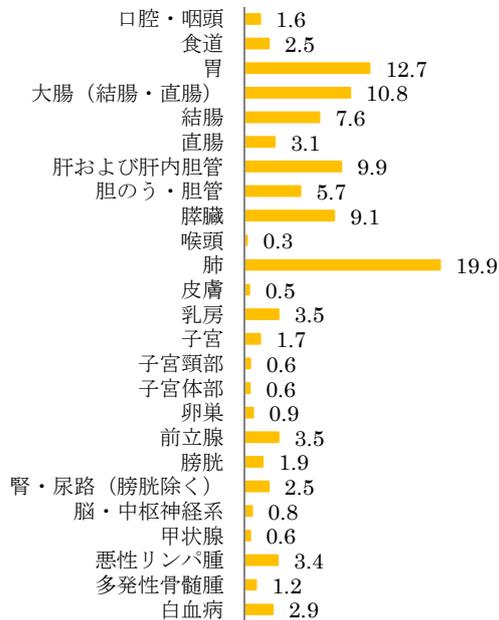
女性の部位別に見ると、死亡割合が高い順に肺がん、大腸がん、胃がんで、それぞれ15.4%、11.9%、10.5%であり、罹患割合の第1位にあった乳がんは、死亡割合では7位(7.9%)となっていた。

男女計の部位別に見ると、死亡割合が高い順に肺がん、胃がん、大腸(直腸・結腸)がんで、それぞれ19.9%、12.7%、10.8%であり、罹患割合と同順であった。

*表9参照



男女計 全年齢 (%) 3,753件

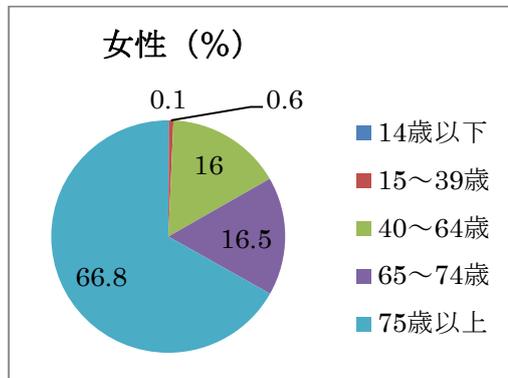
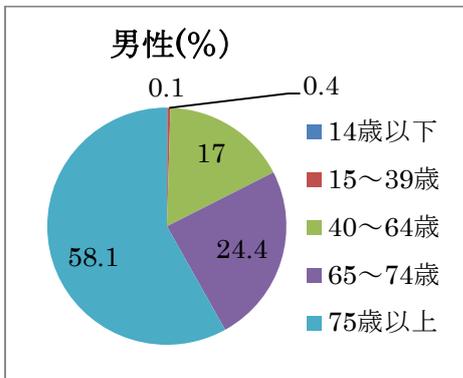


2) 年齢階級別に見たがんの概要

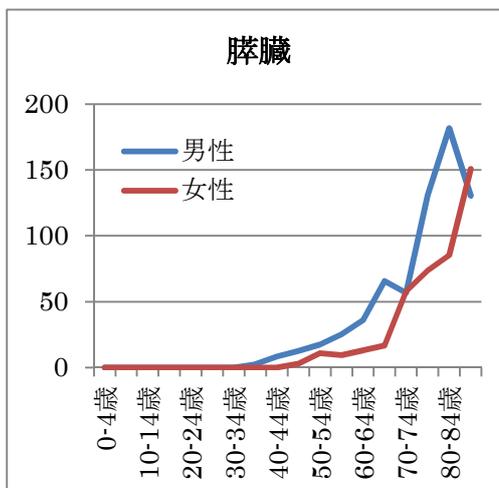
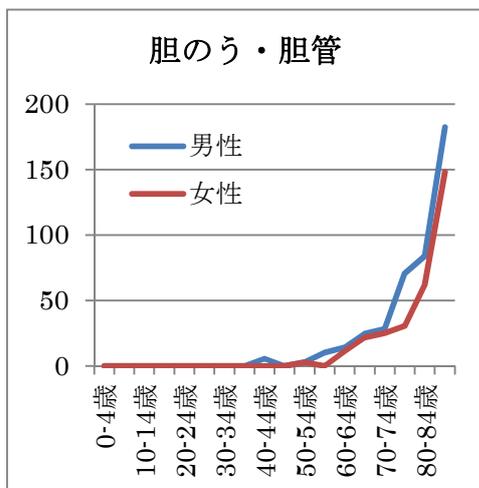
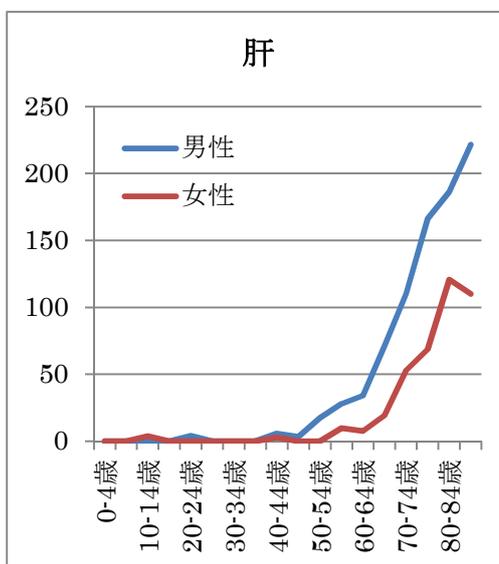
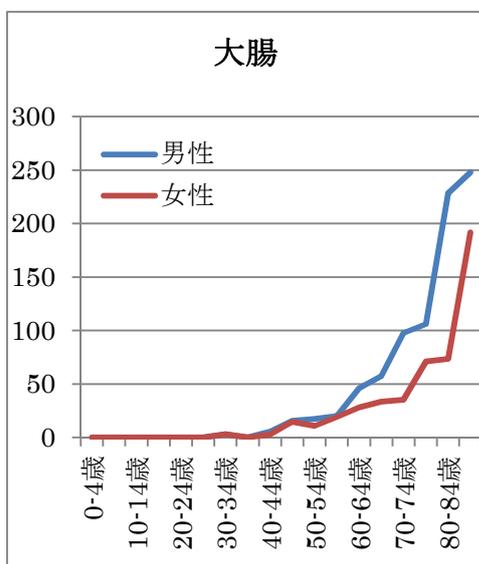
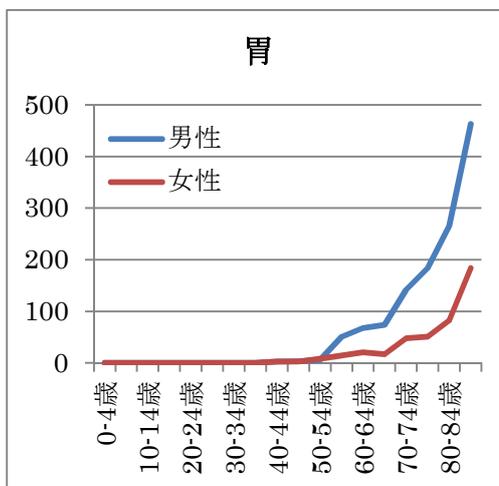
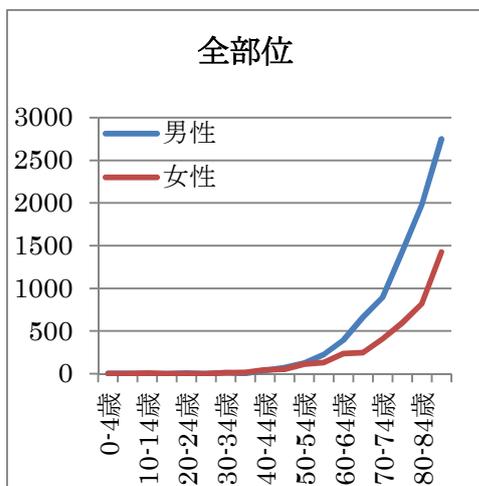
男女ともに大分県で2012年のがんで死亡された方の約8割が65歳以上であった。ほとんどあらゆる部位のがんは、年齢が高くなるほど罹りやすくなるため、がんによる死亡数も高齢者が多い。乳房と子宮は年齢が比較的低い時期から死亡率が上昇する。

年齢別死亡内訳 (%) ※表10参照

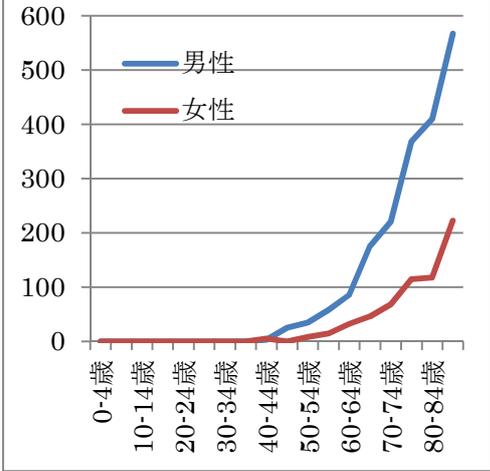
	男性(件)		女性(件)
14歳以下	2	14歳以下	2
15～39歳	8	15～39歳	9
40～64歳	365	40～64歳	256
65～74歳	525	65～74歳	265
75歳以上	1251	75歳以上	1070
合計	2151	合計	1602



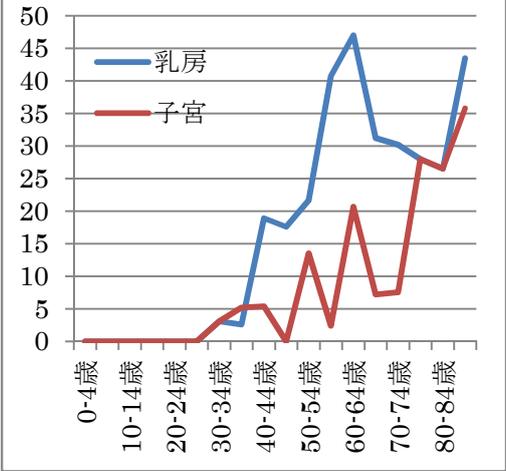
部位別年齢階級別死亡率：人口10万対 ※表11参照



肺



乳房・子宮



前立腺

